

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 304 号	氏名	岡崎 志帆子
学位審査委員	主 査	増崎 英明	
	副 査	松山 俊文	
	副 査	北岡 隆	
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価</p> <p>全身性強皮症では血管内皮細胞にアポトーシスを生じている。そこで本研究では全身性強皮症を <b>limited cutaneous SSc</b> および <b>diffuse cutaneous SSc</b> の二つの病型に分け、アポトーシスに関連する蛋白である <b>caspase-3</b> に対する自己抗体の産生の有無を検討したもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>本研究は、<b>caspase-3</b> に対する抗体を <b>ELISA</b> 法と免疫ブロット法を用いて検出し、さらに <b>caspase-3</b> 抗体が、実際に <b>caspase-3</b> の活性を抑制しうるかどうかについて検討したもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、<b>caspase-3</b> 抗体価は <b>limited cutaneous SSc</b> および <b>diffuse cutaneous SSc</b> のいずれも健常人より有意に上昇していた。また <b>caspase-3</b> 抗体陽性の患者では陰性の患者より罹病期間は長く、この自己抗体が肺線維症、血管障害、炎症などに関連していることが示唆され、本研究は全身性強皮症の発症機転解明や予後推定法などに広く利用できる可能性がある。</p>			
<p>以上のように本論文は全身性強皮症の研究に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			